

卒業生代表挨拶



日差しが日々やわらかくなり、桜の蕾も色付き始め、命の躍動する春の訪れを感じる季節となりました。今日は私たち卒業生のためにこのような卒業式を執り行って下さり、感謝申し上げます。学長瀬口和義先生並びに諸先生方に卒業生一同心より御礼申し上げます。

私たちは今日、武庫川女子大学短期大学部での学生生活を終え、各々将来への第一歩を踏み出します。いざ卒業となりますと、新たな道に対する希望を抱くと共に一抹の寂しさも感じます。

ただいま、学長先生の式辞をはじめ、鳴松会幹事長様からあたたかい祝辞を頂き、胸が熱くなる思いです。これから新しい人生を切り開く私たちにとって、皆様から頂いた言葉は大きな励みであり、それを糧に精進して参ります。

振り返れば、今から2年前、ここ公江記念講堂で新たに始まる生活に微かな不安を持ちつつも、新しい生活への大きな期待を胸に入学式を迎えたことが昨日のこのように思い出されます。地方から出てきた私は初めての一人暮らしで慣れない事ばかりでした。それでも友達がそっと力を貸してくれたり、先生方が手厚い指導をして下さったおかげであつという間に学生生活に慣れることができました。

食生活学科で学んだ日々は将来とても為になる濃い時間でした。特に調理を行う実習では知識やスキルを学ぶとともに協調性や準備することの大切さを感じました。そして学びを研鑽し合い、経験を積み重ねたことで、仲間と成長を実感し合うことができました。

新型コロナウイルスの影響で2年生前期はオンライン授業に切り替わり、異例の日々を過ごしました。生活に制限がある中で、辛い事ばかりでなく、私たちはたくさんのことを学びました。「あたりまえはあたりまえではない」と言うことです。友人や家族にも会えない日が続きました。授業でわからないことをすぐに友人に相談できなくなりました。今まであたりまえにできていたたくさんことができなくなりました。しかしそれらのことが少しずつできるようになるとその都度感謝の言葉が溢れていたように感じます。少しのことでも感謝の気持ちが伝えられる人間になりたいと思うようになりました。この学生生活の間に、活動に制限がある中でコロナ禍を乗り越えられたことを一つの自信に、これから歩んでいきたいと思えます。

在学生の皆さん、武庫川女子大学短期大学部には皆さんが興味のある分野に対して学びを深めるための充実した施設や設備があります。また、学生のことを親身になって考えてくださる先生方、そして熱意を持った仲間がいます。この素晴らしい環境の中で、学生生活を通じて皆さん一人一人が抱えている夢を実現されることを願っています。

今日まで、武庫川女子大学短期大学部で充実した日々を送ることができましたのは、未熟な私たちを励まし、ご指導を下さいました学長瀬口和義先生をはじめとする諸先生方、様々な場面で私たちを支えて下さった職員の皆様に心から御礼申し上げます。また、最も近くで応援し、いつも味方になってくれた家族には、言葉では表現できないほど感謝の気持ちでいっぱいです。私たちがこれまで当たり前のように勉学に励むことができたのも様々な面で支えてくれた両親のおかげだと言うことを忘れず、親孝行して参ります。

学生生活を共に過ごした友人との時間は思い出に残る大切なものとなりました。楽しい時も辛い時も夢に向かって進んでくれたのも仲間がいたからこそです。感謝の言葉を伝えたいです。「ありがとう。」

私たちはこれから武庫川女子大学短期大学部で過ごした日々を胸に抱いてそれぞれが違う道へと歩み始めます。やがて月日が経ち、再会の時には、自分が選んだ道に誇りを持った輝く女性となっていることをお誓い致します。

最後になりましたが、武庫川学院の一層のご発展と、私たちを支え、導いてくださった全ての方のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、卒業生を代表して御礼とお別れのご挨拶とさせていただきます。

令和3年3月20日

武庫川女子大学短期大学部

卒業生総代 食生活学科

能島 由花